



高木 愛さん
診療放射線技師

原 泰志さん
放射線部技師長
診療放射線技師

田口 祐也さん
放射線部副主任
診療放射線技師

医療人として常に患者さんの目線で検査・治療を実践

放射線部のご紹介

目覚ましく発展する画像診断・放射線治療では

放射線科医と共に診療放射線技師も重要な役割を担っています。

名古屋記念病院では画像診断のさらなる向上を目指し、新たに320列CTを導入しました。

ますます活躍する放射線部にお話をお聞きしました。

— 放射線部の役割は。

原技師長 今日の医療に欠かせない画像診断において、診療放射線技師は医師の望む診断価値の高い画像を提供することが求められています。患者さんの診療状況、検査目的を把握し、適切な放射線量、適切な撮影方法を選択し検査を行うことが必要です。そのためには装置の特性を熟知し、その性能を活かすための撮影技術、画像処理技術、そしてその結果を評価する読影能力も身につけていなければなりません。

放射線治療では医師の治療計画どおりに正確な照射線量、正確なポジショニングを担保する責任があり、装置の管理を始め

さまざまな専門技術、知識が必要になります。また、不安を抱えて治療にのぞむ患者さんの心のケアや、毎日の照射による状況の変化や患者さんの訴えを放射線科医に報告することも役割の一つと考えています。

— 積み上げてきた実績は。

原技師長 私が入社した1991年当時は放射線技師9名でCT、X線テレビ装置、血管撮影装置、一般撮影、放射線治療装置が稼働していました。CT画像を1スライス撮影するのに9秒ほどかかり、上腹部を撮影するために30分も要する時代でした。

その後、いろいろな技術の進歩と共に放射線部も変革を繰り返し、アイソトープ検

査やMRI検査を開始し、CTの2台目を導入するなど体制を整えてきました。また画像のデジタル化も進め常に進歩してきました。

放射線治療に関しては、2004年の装置更新で3次元治療計画と照射技術により腫瘍への線量の増大が可能となり、根治治療の対象症例も増えました。



— 診療放射線技師は画像を見て診断するのですか。

原技師長 診療放射線技師には画像を読影し診断をする資格は有りませんが、先にも話したように検査を行う上で読影能力は必要不可欠と考えています。また、検査時に一番最初に画像を確認するのは放射線技師であり、安静が必要と考えられる所見や、緊急を要する場合などは指示医に速やかに報告する事も大事な役割だと思います。

— 365日、24時間体制ですね。診療放射線技師は何名いらっしゃいますか。

原技師長 現在16名です。当直は一人で行い概ね全員で分担しています。当直中対応できない検査もありますが、全員が幅広くいろいろなモダリティに対応できることが必要になります。

また、近年は各モダリティの専門性が高くなり、それぞれ担当するモダリティでは専門技師の資格取得を含め、高いレベルを保てるように努めています。

— 今回導入された320列CTの機能や特徴を教えてください。

田口さん その名の通り、検出器が320列搭載されています。そのため広範囲の撮影が可能になり撮影時間が短くなりました。

※モダリティ：CTやMRIなどに代表される医用画像を撮影する装置



た。また Volume scan という機能を搭載しています。特に心臓、脳、小児撮影において Volume scan を使用することで最短で0.35秒で撮影が可能となり画質の向上に繋がっています。冠動脈の検査において撮影中に不整脈が発生した場合、自動的に不整脈を検出してX線照射を止め、次の正常な心拍にて撮影するといった安全機構も搭載しているため、検査精度が格段に向上しました。

その他にも、息止め時間の短縮、造影剤使用量の低減、被ばく線量の低減といった患者さんの負担を軽減でき、解析アプリケーションも豊富で患者さんにとって有益な情報が得られるといった特徴もあります。

— そもそもCTとは、体の断面を切っていくのですよね。

田口さん はい、0.5mmのスライス厚で撮影します。画像としては、体に水平な「体軸断面(アキシャル、axial)」、縦切りの「矢状断面(サジタル、sagittal)」、横切りの「冠状断面(コロナル、coronal)」で表示します。更に、撮影したデータを元に立体的(3D)に表示することも可能です。

— 高木さんの専門をお話ください。

高木さん 私は主にマンモグラフィと健診の胃の検査を担当しています。マンモ

グラフィの乳房の圧迫やバリウムを飲んでいただくなど、患者さんに苦痛を与えることがとても大きな検査になりますので、迅速で正確な検査を心掛けています。

透視検査では消化器・泌尿器などの医師と一緒に検査を行うことがあり、医師や看護師と

協力してスムーズに検査ができるようにしています。

原技師長 マンモグラフィに関しては当院では全て女性が担当しており、7名の女性技師のうち6名は検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師の資格を持っています。今年度入職した女性技師も現在取得を目指しています。

— 病診連携など地域医療との関わりはどうか。

原技師長 放射線科医師と協力し、1997年から登録医の先生方より依頼検査の受け入れを開始しており、年々数を増やしてきました。2017年の実績ではCT 3396名、MRI 4467名の検査を行っています。当院では検査当日に画像を提供し、放射線科医師と協力して翌診療日には読影結果を報告しています。

また依頼検査の予約を診療放射線技師が直接受けることにより、登録医の先生方の要望に応えられるように努めています。

— 今後への思いと、地域社会や患者さんへのアピールをお願いします。

原技師長 患者さんの目線を大事にし、「名古屋記念病院で検査して良かった」と思ってもらえるよう、検査の説明から、検査中も含めて「いかに患者さんが安心して満足して検査を終えるか」について常に皆で考えています。

今回、CTを更新し、最新の装置で診断価値の高い画像が提供できるようになりました。

今後もMRI、アイソトープ、放射線治療の装置などを随時更新し、近隣住民の皆様、患者さん、登録医の先生方により良い医療を提供できるように努めていきたいと思っています。

